

自第一號（平成二十四年六月）
至第四號（平成二十五年三月）

東洋史研究

第七十一卷 總目次

東洋史研究會

論 說

前漢邊郡都尉府の職掌と邊郡統治制度……………	野口 優	一 (一)
陽明派士人と嘉靖初年の政治——陽明學の政治倫理について……………	焦 埜	一 (三)
南宋孝宗朝における太上皇帝の影響力と皇帝側近政治……………	小林 晃	一 (六)
オスマン帝國の經濟ナシヨナリズムに關する一考察……………	小松 香織	一 (一九)
兩漢備價變遷考證……………	石 洋	二 (一九)
漢代における尙書と内朝……………	福永 善隆	二 (二九)
漢魏洛陽城穀水水文考……………	鹽澤 裕仁	二 (三五)
バボージャブの軌跡——“モンゴル獨立”をめざし挫折した、ある内モンゴル人の實像……………	中見 立夫	二 (三六)
オスマン朝のティマール政策——ビトリス縣へのティマール制導入をめぐる……………	齋藤久美子	二 (三八)
ルメリのユリユクから征服者の子孫たちへ……………		
——オスマン朝における準軍人身分の「遊牧民」の成立と展開……………	岩本 佳子	三 (四八)
ムガル帝國におけるバフシ職について——大バフシ職の運用における人的要因……………	眞下 裕之	三 (五四)
ハンと企業家——ラウザン莊の成立と終焉 一九一三—一九一五……………	鹽谷 哲史	三 (五一)
ロシア統治下におけるクルグズ首領層の權威について——遊牧世界とイスラーム世界の間で……………	秋山 徹	三 (五九)
ダライラマ五世の命令文定型化とその影響……………	片桐 宏道	三 (六八)
戰國諸子の士論と漢初の社會……………	佐原 康夫	四 (六九)
明代河北の農業經濟と大運河——近世中國における畿輔……………	田口宏二朗	四 (六四)

中國商標法（一九二三）施行前後の外國企業商標保護體制

——中日・中英商標權侵害紛争を中心として——

本野 英一 四（六八三）

ネットワークのなかの港町とそこにおける所謂「バニヤン」商人

——一九世紀サンジバルにおけるカッチー・バティヤー商人の活動——

鈴木 英明 四（七五四）

書 評

夫馬進編『中國訴訟社會史の研究』

朴 永哲 一（一九）

차혜원著『저울 위의 목민관…명대 지방관의 인사고과와 중곡사회』

渡 昌弘 一（二〇八）

尾高晉己著『オスマン外交のヨーロッパ化——片務主義外交から双務主義外交への轉換——』

黛 秋津 一（二二五）

野田仁著『露清帝國とカザフハン國』

中村 朋美 一（二三四）

宮宅潔著『中國古代刑制史の研究』

水間 大輔 二（三三六）

小田壽典著『佛說天地八陽神呪經一卷 トルコ語譯の研究』

橘堂 晃一 二（三三三）

榎山明・佐藤信編『文獻と遺物の境界——中國出土簡牘史料の生態的研究——』

森谷 一樹 四（七三三）

飯山知保著『金元時代の華北社會と科擧制度——もう一つの「士人層」——』

渡辺 健哉 四（七三四）

久保田文次著『孫文・辛亥革命と日本人』

櫻井 良樹 四（七三五）

學 界 展 望

ポスト・モンゴル時代の海洋インテリジェンス

——一六世紀前半ポルトガルの地圖と海事書をめぐって——

合田 昌史 三（四六三）

モンゴル帝國期以降のヨーロッパとユーラシア世界との交渉……………小澤 實 三(四八)

紹介

A. V. Belikov, Chingisidy v Rossii XV-XVII vekov: prosopograficheskoe issledovanie

(二十五—十七世紀ロシアのチンギス裔——プロソポグラフィ的研究)……………濱本 眞實 三(四三)

近刊叢欄

一(一三三) 二(三三三) 三(三九六) 四(七四三)

大會抄録

東晉南朝の建康における華林園について——「詔獄」を中心としてみた……………戸川 貴行 三(三九〇)

曇陽大師の追憶——明末における士大夫と「宗教」……………石野 一晴 三(三九〇)

秦代軍事制度の諸問題……………宮宅 潔 三(三九一)

唐代の泛階と人事政策……………小島 浩之 三(三九二)

二種の『キターブ・バフリエ』……………新谷 英治 三(三九二)

一九世紀後半ロシア帝國ヴォルガ・ウラル地域におけるイスラーム法實踐……………磯貝 眞澄 三(三九三)

——遺産分割案件の處理を事例として……………徳永 洋介 三(三九三)

北宋時代の治安政策と盜賊重法……………徳永 洋介 三(三九三)

漢譯西學書に見る知の往還——江南製造局譯『地學淺釋』を例として……………武上眞理子 三(三九四)

二十世紀前期の諸論争を振り返って……………足立 啓二 三 (三五)